



佐賀県立男女共同参画センター
佐賀県立生涯学習センター

 0952-26-0011

 交通アクセス

 お問い合わせ

男女共同参画センター

生涯学習センター

DV総合対策センター

相談する

図書を借りる

視聴覚機材や
PCを借りる

ホールや研修室を
借りる

[トップページ](#) > [アバンセ館長ルーム](#) > アバンセ館長コラム第27号 (令和6年6月)

アバンセ館長コラム第27号 (令和6年6月)

アバンセ館長コラム第27号 多様なセクシャリティ ～わたしはアライになれるのか～

「女性問題」や「女性学」を学び始めた時代から「これは、女性だけの問題じゃない。裏返せば男性の問題」と思っていました。その当時、男性は殆どが無関心、よくて理解者の立場に留まっていました。だから「男女共同参画」という言葉が浸透しだして「みんなが当事者になり、考える時代になってきてよかった」と嬉しかったのを思い出します。

しかし今、生き方の多様性に気づくほど「女と男」と二つの性に単純に分けて考える怖さも感じ「男女共同参画」よりも、さらにふさわしい表現はないのかと思うようになりました。

性のあり方（セクシュアリティ）については、「からだの性（生物学的な性）」・「こころの性（性自認）」・「好きになる性（性的指向）」・「表現する性（性表現）」の4つの要素から説明されることも増えてきました。からだの性は、出生時に主に医師によって割り当てられた戸籍上の性ですが、生物学的にも完全に二分できるわけではありません。

こころの性（自認する性）も大別すれば、からだの性と一致しないトランスジェンダー、男女の枠にとらわれないエックスジェンダー、からだの性と一致しているシスジェンダーに分かれています。好きになる性も、異性を好きになるヘテロセクシャル、同性を好きになるホモセクシュアル（自認する性が女性で好きになる性が女性であれば、レズビアン、自認する性が男性で好きになる性が男性であればゲイ）、性自認はどうであれ男性女性両方を好きになるバイセクシャル、恋愛や性愛の欲求を持たないアセクシャルが存在します。そして、表現する性に関しては、服装、言葉遣い、立ち振る舞い等によって、自分の性をどう表現するのかという側面も加わります。

この4つの要素の組み合わせだけでも、ゆうに100パターンを超えます。どれも、少数派であるための生きづらさはあるものの、治すべき障がいや病気ではなく、その人らしさにすぎません。

そして他人がその開示を強いることはできません。自らの性のあり方を、いつ誰にどのように開示するのかしないのかは、本人の選択です。こうしてみると、一人一人が唯一無二の存在であることは頭でわかりながら、見知らぬ段階で相手を理解するハードルの高さにたじろぐ思いも湧いてきます。

「不用意な言動で目の前の相手を傷つけるのではないかな、それは避けたい。」相手も自分も同じように尊厳があると思えば、たじろぐこともプラスの意味がありそうですね。

さて、わたしのSOGI（性的指向・性自認）をここでお伝えしておきます。

私は、ヘテロセクシャルでシスジェンダーですが、過去を振り返ると100%と言い切れません。揺れた時期もありました。性表現の方向性は、徐々に中性的になってきていますが、ときどき花柄などの女性的なおしゃれを楽しみ、ひとつの型に嵌らない変化や自由さを好みます。ただ、自分でも気づいている心配な傾向があります。

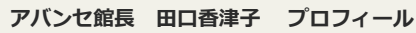
新しい出会いに対して「あなたのことを知りたい」と願い、深く関わる姿勢が希薄になっている気がしています。既存の関係性の中で安堵したいのかもしれません。加齢現象なののでしょうか。

私は、ひとりひとりの違いを受け入れ、応援できる存在～アライ（ALLY）になれるのでしょうか。

簡単に相手を分かる超人にはなれませんが、わかろう、つながろう、という気持ちはなくしたくないのです。せめて、柔らかな感性を持つ人たちとの交流が途絶えないようにします。

コラムを読んでくださった皆さんはいかがですか？

自分はどうかな？と考えることが、当事者性の始まりかなと思っています。



[アバンセとは](#) | [リンク集](#) | [公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団](#)

